

平成19年度の取り組みについて

本年度は、8つの授業科目を生活観光現代GP科目として位置づけ、4つのテーマに沿った取り組みを行いました。

生活観光現代GPのテーマと平成19年度GP科目

| | | |
|------|---------------------|--|
| テーマ1 | 古都奈良の地域資源を現代的視点から学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ●言語文化伝承論特殊研究Ⅱ ●なら学概論 ●文化と地理学ゼミナール(展) ●文化人類学特殊研究 |
| テーマ2 | 奈良の自然と景観を評価する | ●展開実習 |
| テーマ3 | 生活環境を再評価する | <ul style="list-style-type: none"> ●建築・住居史 ●地域居住学 |
| テーマ4 | 生活観光の設計と情報の発信 | ●社会情報学専門演習Ⅱ |

テーマ1「古都奈良の地域資源を現代的視点から学ぶ」については、文学部の教員を中心に「言語学文化伝承論特殊研究Ⅱ」「なら学概論」「文化と地理学ゼミナール(展)」「文化人類学特殊研究」の4科目の授業を開講しました。

テーマ2「奈良の自然と景観を評価する」については、理学部の教員による「展開実習」が行われました。

テーマ3「生活環境を再評価する」については、生活環境学部の教員を中心に「建築・住居史」「地域居住学」の2科目の授業を開講しました。

テーマ4「生活観光の設計と情報の発信」については、文学部の教員が担当する「社会情報学専門演習Ⅱ」で演習の授業で行いました。

授業内容の一例として、「なら学概論」では、奈良県の歴史や文化・地域の特徴について学び、地域を調べることで奈良の魅力や可能性について考えました。地元で活躍する方をゲスト講師として招いたり、春日大社や奈良の鹿愛護会などの施設への見学をして、奈良への視点を深めました。また、きたまちやならまちを街歩きし、奈良「自分マップ」を作成、報告するという実習をしました。最後に、授業で学んだ視点を深めた奈良に関するレポートや奈良と地元の地域を比較したレポートの提出が行われました。

このように、それぞれのテーマ、科目ごとに授業の中で奈良に関して学び、学生の地域への関心を深めました。

平成19年度 生活観光現代GPの活動について

●大学教育改革プログラム合同フォーラムへの参加

文部科学省が主催する大学教育改革プログラム合同フォーラムが、2月9日(土)・10日(日)の2日間の日程で、パシフィコ横浜で行われました。今回、生活観光現代GPは、10日の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(ポスターセッション)」の分科会に参加し、取組について紹介しました。会場では、事業内容についてや地域との協力体制についてなど様々な質問が寄せられました。



ポスターセッション出展の様子

●平成19年度の取組を終えて

この「生活観光現代GP」のプログラムは、本学独自の取組として平成19年4月からはじまりましたが、9月に文部科学省から現代GPに選定され、より充実したものになりました。

取組の内容は、授業・演習などのほか、ワークショップや研究発表会の開催など、盛りだくさんです。ただ、第1年度ということで、うまくいった取組もあれば、次年度に課題をのこした取組もあるのが実際のところなのです。

皆様から様々なご意見をいただきながら、これからも取組を発展させたいと考えています。

生活観光現代GP代表 増井正哉



発行元

奈良女子大学社会連携センター
生活観光現代GP推進室

〒630-8506 奈良市北魚屋西町

Email: gp-gendai@cc.nara-wu.ac.jp

http://www.nara-wu.ac.jp/gp2007

●ワークショップの開催

「生活観光現代GP委員会」は、推進委員・学生委員・地域委員によって構成されています。生活観光現代GP委員会は、推進委員・学生委員・地域委員の意見交換を目的として、「生活観光現代GPワークショップ」を開催します。

本年度は、2月22日（金）に、奈良女子大学生生活環境学部会議室にて、第1回ワークショップを実施しました。

地域委員や学生委員に対し、生活観光現代GPの取組内容や実施体制・実施計画などの説明が行われたのち、各学部の担当教員による本年度の取組についての報告が行われました。

その後、地域委員や学生委員から生活観光現代GPの取組について、様々な意見や感想をいただきました。

●地域委員より

- ・奈良をもっと賑わいのあるまちにしたいのだが、地域にはいろんな団体があり、バランスや調整をして進めていくのが難しい。奈良女子大学や学生と一緒にやっていくなかで見えなかったものが見えてくるようになった。
- ・奈良市中心市街地活性化計画の認定も大詰めにきている。いろいろなイベントで大学の協力が得られ、とても心強い。
- ・ならまちはまだ成熟しているとは言えず、不安定な状態である。まちづくりの捉えかたもバラバラになってきているため、各分野のまちづくりをどこかで繋いでほしい。今後も、まちの人間と一緒に活動して欲しい

●学生委員より

- ・卒業でも商店街の方々にはお世話になった。ご協力が得られたので、いい卒業に仕上がった。今後はさらに研究を深めていきたい。学生なので活動することが楽しく、そういったことで貢献していけるのであれば嬉しい。
- ・これまで「奈良漬プロジェクト」（生活環境学部現代GPの取組）に参加し、東京でのイベントにも参加した。これからも、奈良を広く知ってもらえるようなものを開発していきたい。



●研究発表会の開催

奈良女子大学では、多くの学生が奈良に関わる研究に取り組んでいます。その研究を地域へ発信しようと、奈良女子大生による「奈良」に関わる研究発表会を開催しています。

本年度は、3月21日（金）に、生活観光現代GP、生活環境学部現代GP、文学部なら学プロジェクトが共同で主催し、世界遺産国宝の元興寺のご協力のもと、禅室を会場としてお借りして研究発表会が行われました。

当日は、10題の発表、3題のプロジェクトの報告、11作品の展示が行われました。

とくに研究発表では質疑応答が活発に行われ、充実した研究会となりました。



研究発表の様子



展示の様子

●平成20年度の取組に向けて●

来年度は科目が更に充実します。生活観光現代GP科目として、前・後期合わせて27科目が設定されました。これらは各学部でこれまで開講されていたものもありますが、GP用に新たに開講される科目もあります。

来年度の特徴は、科目をテーマごとに位置づけているだけでなく、「導入科目」「基礎科目」「発展科目」と体系的に学べるようにしました。

これらの科目を通して、学生は地域への知識や関心を深め、地域へと発信していきます。

さらに、GP科目で学んだことをきっかけに、地域で自ら活動し、貢献してくれる人材を育成できるようにしたいと考えています。

今後の成果をご期待下さい。



会議風景

編集後記

全学部での取組となる生活観光現代GPが始まって半年になります。これまで6回の会議が開かれました。毎回、さまざまな議題について話し合いを行っています。とくに、この半年は来年度の科目についてや、体制づくりなどに時間をかけました。

来年度は、地域の方々や奈良を訪れるの方々により親しんで参加・ご協力していただけるようさらに工夫を重ねていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。